

「全日本花いっぱい亀岡大会」 キャッチコピー コンセプト・作成意図

花でつながる、心がひろがる。

【背景と趣旨】

「花いっぱい運動」は、終戦直後に松本市の教員であった小松一三夢氏が提唱し、「花を通じて社会を美しく、人々の心に豊かな大輪の花を咲かせる」ことを目的として始まった歴史ある取り組みです。第62回となる本大会は、京都府では平成6年の園部大会以来32年ぶり、亀岡市では初開催となります。今回は表彰式および交流会を中心とした開催形式であることを踏まえ、派手なイベント性よりも「人・心・絆」の結びつきや、これまで全国で花を育ててこられた方々への感謝と称え合いに重きを置いたフレーズとして本コピーを制作しました。

解説①「花でつながる」

交流と結びつき（大会の機能）全国各地で花いっぱい運動に取り組む人々の存在、そして亀岡の地に集う人々の出会いと交流を表現しています。「花」という共通の想いを通じて地域や世代を超えた絆が生まれること、また表彰式・交流会という「人と人が顔を合わせる場」の価値を直感的に伝えます。

解説②「心がひろがる」

理念の継承と未来への展開（運動の価値）花を愛でることで人々の心にゆとりや優しさが広がるという、運動創始の理念を現代的に表現しています。受賞者の功績を称え合い、その喜びや感動が波紋のように全国へ、そして未来へと広がっていくイメージを込めています。

解説③トーン&マナー（表現上の工夫）

親しみやすさと浸透性 ひらがなを多く用い、どなたにとっても口ずさみやすく耳なじみの良いフレーズに仕上げました。ポスターや広報紙などの各種媒体において、幅広い年代の市民や参加者にずっと届く親近感を持たせています。対比構造によるリズム感「～つながる」「～ひろがる」と動詞を対比させることでリズムを生み出し、記憶に残りやすい構成としています。